

## 中国の重点大学における「通識教育」改革の実態に関する調査研究：学生へのインタビュー調査を中心に

史, 媛媛  
九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：博士課程

<https://doi.org/10.15017/7386768>

---

出版情報：国際教育文化研究. 15, pp.201-214, 2015-10-28. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



# 中国の重点大学における「通識教育」改革の実態に関する調査研究

## －学生へのインタビュー調査を中心に－

史 媛媛

### 1. 本研究の目的と背景

本稿の目的は、現在の中国の重点大学における通識教育改革の実態について、学生の視点から北京大学、中山大学および西安交通大学の現地調査を通じて、特に「通識教育」を受ける学生側の聞き取り調査を中心に、明らかにすることである。

「通識教育」の概念について、李（1999）は性質、目的と内容という3つの視点から次のように定義している。即ち、「通識教育」とは、性質の視点からは、高等教育の必要な部分として、すべての学生に対する非専門教育であり、目的の視点からは、社会責任を身につけ、積極的に社会活動に参加し、全面的に発展されている人および国の市民を育成する目的としての教育であり、内容の視点からは、幅広く非専門的で非実用的な知識・技能・態度を学ぶ内容としての教育である。また、大塚（2004）と陳（2003）らにより、中国における教養教育は「通識教育」と呼ばれていることが指摘された。そして、ZHANG（2012）この「通」（tong）の意味は「総合・接続」であり、「識」（shi）の意味は「知識」である。これらを踏まえ、本稿では通識教育というのは、高等教育の必要な部分として、専門教育に対して、様々な学問領域を幅広く学ぶカリキュラムを指している。本稿において、中国の文脈における「通識教育」は、日本の従来の一般教育・教養教育に相当するものとする。

中国の大学教育は、1980年代以降には、改革開放以降と市場経済への変革に応え、「通識教育」が復興されていったことが指摘されている。1992年の年社会主義市場経済導入以降において、高等教育に関わる旧ソ連型から欧米型へ転換する改革が進められ、その中で、欧米型の一般教育モデルを模倣した「通識教育」改革は、各大学の関心の高い課題になってきている。ここに、中国の「通識教育」改革問題を研究する必要があると考えている。先行研究においても、陳（2003）は、政策や文献研究を持ち歴史的な視点から、北京大学の事例を取り上げその「通識教育」カリキュラムを検討した。楊（2012）は、上海市の3つの大学の例を取り上げて、各大学の規模、人材養成目標、学科構成などの特性が教養教育カリキュラムに与える影響を分析し、通識教育科目を担当する教員の実施体制にも影響があるという結論を明らかにした。史（2013）は、「通識教育」改革の行政者の立場から北京大学の事例を中心に、その特徴や問題点などを検討した。

これまでの先行研究から見ると、通識教育に関わる教員側または行政側が行われていること

がわかる。しかしながら、一方で通識教育を受ける学生側からその問題の研究することも重用であるとする。以上のことから本稿では、学生の立場から、現在の中国の「通識教育」改革の実態を解明する。

そこで、まず本稿では、研究対象として、北京大学、中山大学および西安交通大学という三つの重点大学の例を選択した理由を説明する(第2節)。その後、本稿で用いられるデータや調査概要及び調査対象者について述べる(第3節)。さらに、調査結果について分析する(第4節)。最後には、これらを踏まえ、まとめと今後の課題を提示する(第5節)。

## 2. 研究方法と事例大学の選定

### (1) 重点大学とは？

中国の高等教育機関数について、中国教育部 2013 年教育統計データ<sup>1</sup>を見ると、高等教育機関数は 4420 個である。その中で、普通高等学校(大学)数は 2491 個である。その中で重点大学は 112 個である(211 工程を指す)。

中国の重点大学については、1949 年の新中国の成立後、高等教育を発展させようとした中国では、教育資源なども全国的に十分に整備する余裕もなく、一部の大学を重点的に整備しようとした。これが重点大学の始まりで、最初は 6 大学選定するところから始まった。

1990 年代に「211 工程」と「985 工程」が建設された。この中で、「211 工程」は、1993 年に教育部により、「21 世紀」へ向けて中国全土に「100 余り」の重点大学を構築することから名付けられた国家プロジェクトである。1995 年から開始して、3 クールに分けて(第一クールが 1996-2000、第二クールが 2001-2005、第三クールが 2007-2011)行ってきたものである。現在 112 の大学を数える。

また、「985 工程」については、1998 年、国務院は教育部に対して「21 世紀に向けた教育振興行動計画」の推進を指示し、世界一流の大学またはハイレベル大学として育成するため重点的に支援することを決定した。このプロジェクトを略して「985 工程」という。

現状、中国では「重点大学」というとこの「211 工程」と「985 工程」を指している。

### (2) 重点大学の先導的事例の選定理由

2000 年以前には、全ての大学では、各学院(日本の学部と相対)が設置されている。これによって、全ての学生はそれぞれの学院で 1~4 年間の専門教育を学んでいる。

しかし、2000 年以降には北京大学のような重点大学は先例として、従来の各学院から設備されている大学教育制度を革新するために、新たな学院が設置されてきた。普通の学院と比べて、こうした新たな学院(日本の教養部と相対)は、学生が 1~2 年の間で、専門を区別せずに、専門以外の知識を学んで、3~4 年の間で、専門知識やスキルを学んでいる。加えて、普通の学院制

---

<sup>1</sup> 中国教育部のホームページ、2013 年教育統計「高等教育学校(機関)数」

<<http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s8493/201412/182068.html>2015 年 2 月 20 日登録>参照。

度と並列し、学生の生活を提供している書院制度も設置されている。

そこで、大学教育制度改革を推進している先進例として、北京大学、中山大学と西安交通大学の事例を取り上げ、3 大学における教養教育改革に関わるカリキュラムの構造と学院や書院の実施過程を分析したいと考える。

なお、史（2015）は、北京大学（「核心カリキュラムモデル」）、中山大学（「古典名著カリキュラムモデル」）、西安交通大学「生活体験カリキュラムモデル」について、中国の重点大学における通識教育のモデル論を詳細に論及しているから、ご参照ください。

表 1 北京大学と中山大学と西安交通大学の事例の比較分析

|                            | 北京大学          | 中山大学                          | 西安交通大学          |
|----------------------------|---------------|-------------------------------|-----------------|
| 「通識教育」に関わる課程               | 「通識教育」選択課程    | 「通識教育」コア課程<br>＋<br>「通識教育」一般課程 | 「通識教育」コア課程      |
| 新しい「通識教育」の形成を目指す学院・書院プログラム | 「元培学院」        | 「博雅学院」                        | 「書院」            |
| 米国大学からの影響                  | 「核心カリキュラムモデル」 | 「古典名著カリキュラムモデル」               | 「生活体験カリキュラムモデル」 |

出典：筆者作成。

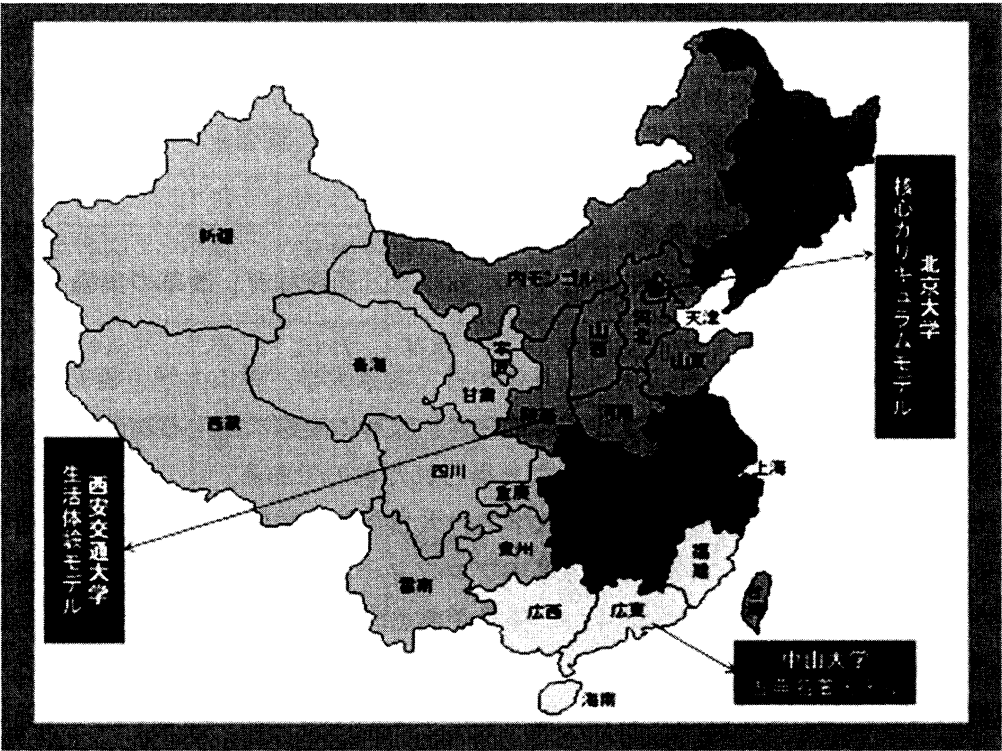


図 1 事例の設定：北京大学・中山大学・西安交通大学

本稿では北京大学、西安交通大学と中山大学の分析を選定する理由について、三大学とも、100 年近い歴史と伝統を持ち、中央教育部所轄の総合型重点大学である。そして、学部学科構成をみると、三大学とも人文科学系、社会科学系、自然科学系から学部が構成され、文系・理系のバランスが取れている。この三つの事例研究を行うことを通じて、国内比較分析のケースを相対化したのちに中国の重点大学における「通識教育」の全体の現状と特徴を理解することができると思う。

そして、北京大学について、2000 年以降には、北京大学などの重点大学を中心とした多くの大学は、学士課程段階において「通識教育」を実施する試みを開始している。北京大学を取り上げた理由について、北京大学の「通識教育」改革は、2001 年 9 月に元培計画管理委員会が組織されたことから始まった。2007 年には最初の非専門学部である元培学院が正式に創設され、北京大学の本科教育改革が新しい段階に入ったと言われている。

そして、西安交通大学を取りあげた理由について、西安交通大学では、2006 年から 2013 年にかけて、8 つの書院（「彭康書院」「文治書院」「宗濂書院」「仲英書院」「南洋書院」「崇実書院」「勵志書院」「啓徳書院」）が設立されている。この書院制度の導入が、西安交通大学では新しい人材育成モデルの段階に入っていることを示しており、学士課程教育の新しい構図とされることとなった。その「通識教育」カリキュラムおよび関連組織である書院制度の問題を考察したい。

さらに、中山大学「博雅学院」は 2009 年に設立され、学生に対して古代中国、古代ギリシャ語などの古典的な知識を教え、特色ある「通識教育」カリキュラムを実施している。その「通識教育」カリキュラムの事例として分析していく。

本稿では、事例研究として、3 つの大学における「通識教育」カリキュラムの実態を考察するため、各大学では、通識教育改革を受ける学生側へインタビュー調査を中心に、分析していく。

### 3. 調査研究の概要および調査対象者

本調査は、学生の視点から現在の中国の大学における「通識教育」改革の実態を明らかにすることを試みたものである。

本稿で用いるデータは、2015 年 5 月～6 月にかけて北京大学、中山大学、西安交通大学の 3 校で実施した「中国の重点大学における『通識教育』改革の実態に関する訪問調査」において「通識教育」改革を受ける学生側（14 名）より得られたものである。

調査方法は、14 名の学生に、それぞれの大学で一人当たり 1 時間にわたって半構造化インタビュー行っており、そのうち、本稿では 14 名のプロフィールは以下の表 2 のように示した。また、調査内容について、以下のように 4 つの項目がある。すなわち、①「大学教育、通識教育または専門教育の理解について」は、Q1 大学で何を学ぶのか、Q2 通識教育についてどう思うのか、Q3 専門教育の理解、または通識教育と専門教育の関係性についてどう考えているのか、について尋ねている。

次に、②「通識教育カリキュラムについて」は、Q4 通識教育の必修科目として、例えば毛沢東思想概論、鄧小平理論、思想品德修養、英語、やコンピュータなどの科目をどう思うのか Q5

また、大学の通識選択課程（通識核心課程や通識一般課程）の中から、どんな授業を選択しているのか。これらの授業を通じてどんな知識あるいはスキルなどを得たか。これらの課程について、どう評価しますか、それらの利点と欠点は何であるのかなどについて尋ねている。

③「通識教育改革の問題点について」は Q6 通識教育改革に直面している問題点や課題について、どう考えているのかを尋ねている。

④「これからの方向性について」は Q7 通識教育改革が直面している問題点や課題に対して、何かのアドバイスや提言、あるいはこれから改善する方向性があるのか。という質問項目を実施している。

以下では、4つの領域に分けて、表2に示した対象者からのインタビューを分析していく。

表2 インタビュー対象者のプロフィール

| 調査対象校          | 調査対象者 | 性別 | 年齢  | 専攻  | 所属                | 調査時期    |
|----------------|-------|----|-----|-----|-------------------|---------|
| 北京大学<br>(6名)   | Aさん   | 女  | 20代 | 統計学 | 北京大学元培学院3年生       | 2015年5月 |
|                | Bさん   | 女  | 20代 | 法学  | 北京大学元培学院3年生       | 2015年5月 |
|                | Cさん   | 女  | 20代 | 物理学 | 北京大学元培学院3年生       | 2015年5月 |
|                | Dさん   | 男  | 20代 | 経済学 | 北京大学元培学院1年生       | 2015年5月 |
|                | Eさん   | 男  | 20代 | PPE | 北京大学元培学院1年生       | 2015年5月 |
|                | Fさん   | 男  | 20代 | 教育学 | 北京大学教育学院院生1年生     | 2015年5月 |
| 中山大学<br>(4名)   | Gさん   | 女  | 18歳 | 未定  | 中山大学博雅学院1年生       | 2015年5月 |
|                | Hさん   | 男  | 20代 | 未定  | 中山大学博雅学院1年生       | 2015年5月 |
|                | Iさん   | 男  | 20代 | 未定  | 中山大学博雅学院1年生       | 2015年5月 |
|                | Jさん   | 男  | 20代 | 政治学 | 中山大学博雅学院4年生       | 2015年5月 |
| 西安交通大学<br>(4名) | Kさん   | 女  | 20代 | 英語  | 西安交通大学外国語学院(彭康書院) | 2015年5月 |
|                | Lさん   | 男  | 20代 | 英語  | 西安交通大学外国語学院(彭康書院) | 2015年5月 |
|                | Mさん   | 男  | 20代 | 機械学 | 西安交通大学能動学院(彭康書院)  | 2015年5月 |
|                | Nさん   | 男  | 20代 | 機械学 | 西安交通大学能動学院(彭康書院)  | 2015年5月 |

#### 4. 調査結果

##### 4.1 「大学教育、通識教育または専門教育の理解について」

###### Q1 「大学で何を学ぶのか」

「現在の社会には、ビッグデータの台頭のため、複合型人才の育成は重要です。つまり、ジェネラル人材が大切です。現在、仕事を探す場合には、伝統的専門人材は不適切です。その代わりに、学際学科を勉強する人材が求められています。例えば、伝統的な単一の統計学より、統計学プラス金融学、または統計学プラスデータ科学は、優位を持っていますと考えます。」(北京大学 A さん)

北京大学 A さんの回答により、現在の中国の企業では専門人材ではなく学際性がある人材が求められる人材観が分かる。

「大学は（学生の）視野を広げなければなりません。大学の目的は、言いかえ、大学教育は学科の考え方や方法の学習を育成することを重視し、学生の思考力や研究能力を培養しています。加えて、各方面の知識を学ぶことも大事です。」(北京大学 B さん、C さん)

北京大学 B さんと C さんの回答から、大学では知識を学ぶだけではなく、学生の思考力や研究能力を育成することが重要であることがわかる。

「(大学は) すべての学生に対して、自分の興味や人生の道を探すことを役に立ちますと思います。大学は多く選択肢や可能性を提供し、学生に自発的に考えることを教えています。(学生は) 最終的には社会に入って居ます。それで、社会では人と人の関係をうまく処理することが必要です。そこで、大学は学生が学校から社会に入ることができた橋で、大学は学生に社会に向かっている必要な技能、知識や素質を提供していますと思います。」(北京大学 D さん)

「大学 1 年生は博雅学院から提供されている課程内容を勉強していますが、大学 2 年生や 3 年生は自分の興味や方向に関わる課程内容を勉強しています。」(中山大学 G さん)

「大学は読書場で、自分の興味を見つける場だと思います。」(中山大学 H さん、I さん )

北京大学 D さん、中山大学 G さんおよび中山大学 H さん、I さんの回答が共通しており、これらの回答から、大学では学生の自分の興味や将来の進みたい道を見つけることが大事であることが分かる。

「大学で育成されている考え方、系統的な世界観、または学習方法などは将来の仕事に役に立つと思います。」(西安交通大学 L さん)

「文系の学生に対して、社会科学や総合性や人文性がある科目を勉強したら、仕事に役に立つと思います。」(西安交通大学 K さん、L さん、M さん、N さん)

「学生個人の状況に応え、もし学術の道を行く場合は、大学院へ進学するために専門教育の勉強が必要です。」(西安交通大学 K さん)

「(学生の) 学習の方向(興味)に応じて異なる知識を与えられ、または異なる方向(興味)に応じて異なる重点を与えられますと考えます。」(北京大学 E さん)

以上の回答から見ると北京大学、中山大学や西安交通大学の学生たちからの話しにより、まず大学では、学生に考え方や思考力を育成すること、学生の興味や将来進みたい道を見つけること、または学際性や総合性がある知識を教えることが大事だと考えていることが分かる。

次に、大学教育（学士課程教育）と大学院教育との関係について、学部段階の教育は学生の思考力の育成を重視し、大学院教育は専門教育を実施していることも学生から認識されている。

さらに、大学で何を学ぶのかについて、文系や理工系の学生がそれぞれ、または将来の進路とつながっていることも分かる。その中で、文系の学生には総合性がある社会科学の課程を求められていることが分かる。

## Q2「通識教育についてどう思うのか」

「大学の通識教育について、学生は通識選択課程を通じて、各専攻や各領域を理解するためのプラットフォームです。元培学院が自分の通識教育を持っています。今年、元培学院の院長が変わって、新しい改革も推進されてきました。この新しい改革について、今年の大学1年生の前期から、元培学院の学生は専門学院の学生と同様にカリキュラムを履修することが始まりました。ここで、学生たちが専門課程に関わる学習は困難になってきました。」（北京大学Aさん）

「（通識教育は）人の素質を向上すること、あるいは知識を拡大することに役立つと思います。」（北京大学Dさん）

「通識教育の目標は学生の修養を向上することだと思います。」（中山大学Hさん、Iさん）

「通識教育は、自由に授業を選択することであり、整合性がある授業を履修することであり、異なる方面の基礎知識を学べることです。」（北京大学Bさん、Cさん）

「通識教育は、専門教育の補足的なことであり、学際的な学科の学習です。」「通識教育は選択する権利を有することを意味しています。」（北京大学Eさん）

以上の回答により、通識教育の意義や役割などについて、学生たちはどう考えているのかを整理すると、論点は主に二つ挙げられる。

第1は、通識教育は、知識を広げることや各専門や分野を理解すること、または学生の素質を向上することに役立つといえる。

第2には、学生は通識教育を自由に授業を選択することと理解していることが分かる。

しかし、現在の通識教育について、その実際の効果があまり上がっていないという意見もある。この点については、詳細に後述していく。

## Q3「専門教育の理解、または通識教育と専門教育の関係性についてどう考えているのか」

「専門技術は、仕事を見つけることまたは大学院へ進学することに対し、重要です。しかし、文系と理系は違います。また、大学の目的は、学生に未来を選択することに役に立つことです。大学初年次（1年生や2年生）は大学入門課程を履修し、高年次（大学3年生や4年生）は専

専門教育を学んでいます。専門教育を受ける前に通識教育が必要であり。つまり、通識教育は専門教育の基盤となっています。」（北京大学 B さん）

「専門教育が大切ですが、これを大学院教育段階で実施する方が良いと思います。専門教育と通識教育は、包含の関係にあり、専門教育は通識教育に包含されています。つまり通識教育はもっと広い範囲として、専門教育はその中に含んでいると考えます。」（北京大学 A さん）

「（通識教育と専門教育の）両者の関係は、前後の関係ではなくて、相互補完的な関係だと思います。」（北京大学 C さん）

「専門教育と通識教育の関係性について、明確な区分はありません。博雅学院の課程は、複合体として専門教育側だけではなくて、通識教育側の両方を持っていますと思います。」（中山大学 H さん、I さん）

そして、専門教育は通識教育と密接な関係がある。この通識教育と専門教育との関係について、学生たちが以下のような三つの観点（前後関係、包含関係および相互関係）を持っていることが分かる。

第 1、通識教育は専門教育の基盤として位置づけられることが望ましい。（前後関係）

第 2、専門教育より、通識教育はもっと広い範囲であるべきだという意見。（包含関係）

第 3、専門教育と通識教育の間は相互作用があるという意見。（相互関係）

#### 4.2 「通識教育カリキュラムについて」

Q4「通識教育の必修科目として、例えば「毛沢東思想概論」、「鄧小平理論」「思想品德修養」「英語」や「コンピュータ」などの科目をどう思うのか。」

「これらの課程は全校共通課程で、主に単位を得るために、多く力を入れることが必要ではありませんと思います。」（北京大学 A さん）

「これらの課程は通識教育課程とはみなされません。これらは学生の負担となっています。学生達は、これらの課程の勉強の価値を見ることができませんから、あまり真剣に授業を受けなくなります。また、みんなは自然に抵抗しています。」（北京大学 B さん&C さん）

「これらの課程は通識教育課程との関係があまりないです。そのうち、「毛沢東思想概論」、「鄧小平理論」「思想品德修養」などの科目を履修することが必要ではありません。また、外国語とコンピュータという科目は必要ですが、特に外国語科目が比較的に重要であり、コンピュータ科目が次第に重要だと思います。」（北京大学 E さん）

「大学 2 年生の時に、これらの課程を履修します。興味あまり感じられないです。」（中山大学 G さん）

「マルクス哲学や毛概や鄧論という科目は通識教育課程ではないと思います。」（中山大学 J さん）

以上学生からの回答により、「毛沢東思想概論」などの全学必修科目は通識教育課程となることが認められないことが分かった。これらの科目は通識教育課程ではないという意見が多く、

学生はこれらの授業に対して、あまり興味が湧かないという現状が分かる。

Q5「大学の通識選択課程（通識核心課程や通識一般課程）の中から、どんな授業を選択しているのか。これらの授業を通じてどんな知識あるいはスキルなどを得たか。これらの課程について、どう評価しますか、それらの利点と欠点は何であるのか。」

「（私は）経済学原理、社会心理学、西洋美術史や地震概論などの科目を受けました。これらの授業の意義について、（私たちは）社会を理解することに役立ちます。つまり、科学的な観点から現在の社会および人間の心理を理解することに役に立つと思います。」（北京大学 A さん）

「通識教育課程を受けることが有意義だと思います。私は愛的心理学などの科目を受けました。この科目を勉強することにより、学生に人と人の関係や社会を理解することに役に立ちます。私たちは他の人がどのように考えているのかを知っていること、または私たちは他の人をよく理解することや他の人への態度を対処することができると考えます。」（北京大学 D さん）

「問題点として、いくつかの通識教育課程のトピックは大変細かくて、狭すぎですので、体系的に学科を理解することが役に立たないと思われます。例えば、『四書』という授業は細かすぎると思います。また、教員たちの興味に応じて授業を開設し、授業の深さは足りないです。そして、学生は通識教育課程に興味がありません、重視されていないと思います。これから学生にこれらの課程を受ける熱意を向上させなければならない。教員たちは通識教育課程が役に立つと思われ、学生はそう思わないです。」（中山大学 H さん、I さん）

「通識教育選択課程には 12 単位があります。勉強した科目について、例えば、歴史や哲学の科目は人文科学の領域に属し、社会学概論や経済学の科目は社会科学領域に属して、自然科学領域の科目もあります。教員たちの個人の精力に応じて、これらの課程が設置されてきた。また、自然科学領域の科目が多いと思われます。」（西安交通大学 K さん、L さん、M さん、N さん）

「これらの課程の問題点について、主要な問題点として授業の内容は良くないという点があります。つまり、教員の教え方や授業内容はアカデミックじゃなくて、教員と学生の両方があまりすべて投入しなくて、時間や精力を入りません。もう 1 つの問題点は授業の規模が大きすぎて、学生と教員の交流が足りないです。（北京大学 D さんと E さん）

先行研究の苑（2002）によれば、この「通識選択科目」の科目数の増加は昨今の改革の目玉となっている。この点から見ると、この「通識選択科目」の導入は今日の中国の「通識教育」改革の一つの側面であると考えられる。現地学生からインタビュー調査の結果により、通識選択課程や通識核心課程の役割や意義について、社会や人間をよく理解することに役に立つと理解していることが分かる。

しかし、現在の通識教育課程にはいくつかの問題点も挙げられている。まずは、通識教育の質が高くなくて、その教育内容が狭いということが指摘された。つぎには、学生の興味やニーズではなく、教員の興味や精力に応じて通識教育課程が編成されたことも指摘されている。さらに、通識教育課程の授業の規模が多すぎて、学生と教員の交流が足りないという点も挙げられている。

#### 4.3「通識教育改革の問題点について」

##### Q6「通識教育改革に直面している問題点や課題について、どう考えているのか。」

「学生の卒業が延長される可能性があります。また、専門能力は（他の専門学部の学生より）まだ差があります。そして、通識教育を推進するプロセスには、その効果があまりよくなくて、さらに多く時間や精力を投入する必要があります。」（北京大学 A さん）

「（元培学院の）目的と実践は不統一です。大学からの支持は重要です。元の元培学院は学長から支持されていますが、現在の元培学院の院長が変わりました。また、現在直面している問題点はとても多いです。例えば、もっと多く資源の投入する必要があること。また、新しい科目や授業を開設する必要があること。そして、より多く投入する必要があること。さらに、大学の改革だけではなくて、高校の改革もあること。その理由については、高校から始めて大学に入って来てすぐ専門を分けることは固定観念となっていますから、多く学生は通識教育が不要だと思います。他の専門学院の学生が直面している課題は就職するのかまたは大学院に入るのか。これに対して、元培学院の学生が直面している課題については、何を学ぶのか。またどんな専攻を選択するかだと思います。」（北京大学 B さん&C さん）

「（教育の）要求が甘やかしすぎて、教学管理が厳格ではありません。学生はこのような質が低い授業が好きだと思われます。」（北京大学 F さん）

「（博雅学院の）院長からこの学院の位置づけは、西洋の古典プラス中国の古代文明という知識構造ですが、実際には古典課程は比較的不足となっています。学生は1年間の勉強を通じて、他の専門学院へ移動することができます。先生たちは困難です（先生の数不足です）。そのうち、プラトンという科目について担当教員は中国人で、使っている教材は『理想国』です。また、ラテン語の授業では英語の教材を使って、選択科目と必修科目を分けて履修し、外国からの教員に教えています。問題点について、博雅学院の最初の設立理念は、理系を含めていることが分かります。しかし、配置すべき人材が不足しているため、理系の教育は失敗しました。また、学生たちは博雅学院に対する概念や教育方式などについて受け入れ程度（理解）が異なっています。」（中山大学 H さん、I さん）

「1つの大きい問題点として、博雅学院は高いコストがかかる教育です。具体的に言えば、多く投入することが必要です。また、博雅学院の教育理念は既存の教育体制と矛盾していることがいえます。具体的に2つの面があります。第一に、社会は高度専門化ですので、博雅学院は学生に良い就職市場を提供することができなくこと。第二に、博雅学院の期待は、学者ではなくて政治家のリーダーを育成することです。しかし、これは既存の体制（イデオロギー）と一致しなくて、博雅学院の自由の思想は中国政治界や中国社会と矛盾しており、ある程度は人材の無駄になると考えます。」（中山大学 J さん）

「書院の初志は学生に『自己管理』という能力を育成することを希望していますが、その効果はあまり上がっていません。1年生から2年生には書院から管理されて、3年生から4年生には各専門学院から管理されていますから、これらのつながりの問題があります。有名無実になっていると思われます。」西安交通大学 K さん、L さん、M さん、N さん）

「実際には、その効果があまりなくて、二つの行政体系は比較的混乱し、行政効率が低いと思います。学生と専門学院の交流を阻害していると思います。書院制度の役割を果たしていません。結局にはクラス幹部と補導員の間の交流となってきた。学生数はたいへん多くて、1つの書院には約3000人の学生がいます。1つの部屋には4人の学生がいます。1つの学年には約800人の学生がいます。また、開催の活動が強行で、学生は全く関心を持っていませんと思われる。補導員はプロではなくて、専門知識を持つ心理的カウンセリングやキャリア計画指導の先生を配備することを期待しています。異なる専攻の間には交流ができなくて、理由は各専攻をもつ学生の性格が違って、学生間に共同の話題がありません。」(西安交通大学Kさん、Lさん、Mさん、Nさん)

以上の回答から、現在の通識教育改革に直面している問題点について、3つの点が指摘された。1つは通識教育改革の効果が充分にあがっていないと考えられていることである。2つ目は通識教育に関わる組織の改革、元培学院や博雅学院や書院にはその理想の目的と実践の結果が違っていることへの指摘である。3つめには、通識教育課程に関わる授業に関して、その授業選択の時間帯が混乱していることや教育要求が低く、教育の管理が厳しくないことも指摘された。4つめには、このような教育はコストが高いこと。つまり、多く投入することが必要である。その他、学生の興味や関心があまりないことも指摘された。

#### 4.4 「これからの方向性について」

Q7 「通識教育改革が直面している問題点や課題に対して、何かのアドバイスや提言、あるいはこれから改善する方向性があるのか。」

「既存の課程は不十分で、まだ課程を整合する必要があります。学際科目や基礎総合科目を増やす必要があります。例えば法律経済学、法律心理学など、異なる学科間の知識の融合を強調することです。アドバイスとして、教務は各専門学院との交流を強調し、うちの学院（元培学院）が設置している課程との間も良い調和があることを期待しています。」(北京大学Bさん、Cさん)

「(通識教育課程に関わる授業では) 先生たちと学生の間には交流を強化するため、学生の自発性に基づいて、疑問に答える教育方式を提案しています。(北京大学Fさん)

「1つの独立的な体制は比較的よいと思います。すべての国防生<sup>2</sup>は『勵志書院』にいます。その出発点が良いですが、その補導員たちはなかなか忙しくて、夜10時または11時までに仕事をしています。専門性を持つ先生たちを配備することを期待しています。書院が本当の交流の場となり、学生に興味がある活動を組織して、異なるクラスや学年の学生達との友情を構築することを期待しています。交通大の現状、つまり行政の効率が低いこと、人情社会や個人問題などに対して、これから書院が文化建設を高めるべきで、学生の参与度や帰属感を高めるこ

---

<sup>2</sup> 中国の国防生は、国や地方の予備軍官を育成するため、全国高校統一試験（高考）を受けて普通の学生と同じように大学で勉強し、卒業資格と学位を取得して、軍隊に入っている。

とを期待しています。」(西安交通大学 K さん、L さん、M さん、N さん)

以上の学生の答えから、各大学の問題点に対していくつかの提言やアドバイスが分かった。具体的に言えば、北京大の通識教育の効果が良くない点、または通識教育課程に関わる授業選択の時間帯が混乱している問題点に対して、これから新しい課程を編成すること、教務システムと各専門学院との交流や学生と教員との交流を増やすことが提言されてきた。西安交通大学の書院の効果が上がらない点に対しては、これから専門性をもつ教員を配備することや書院の文化建設などが提言された。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、現在の中国の重点大学における通識教育改革の学生側の視点からの実態を、北京大学、中山大学及び西安交通大学の例を学生へのインタビュー調査を通して明らかにした。以上の検討に基づいて、以下に3点を知見としてまとめる。

第1に、全体の通識教育改革の背景として、1980年代以降特に2000年以降には北京大学、中山大学、西安交通大学などの重点大学は、学士課程における通識教育改革を実施する試みが始まった。それには、通識教育課程の改革と通識教育に関わる組織の改革という二つの面がある。しかし、本調査でこれらの改革の実践の効果があまり良くなくて、その理想の目的と現実の結果が不統一であることが現在の共通の問題点として指摘することができる。

第2に、通識教育と専門教育の関係について、単一の観点ではなく、多様な考えが学生の中に存在していることが分かった。本調査で、前後関係、包含関係および相互関係の三つの観点で見られていることが分かった。その中で、前後関係には、通識教育は専門教育の基盤や前提として位置づけられていることが分かった。また、包含関係には、専門教育は通識教育の中に入っていることが分かった。相互関係には通識教育と専門教育の間は相互作用があることが分かった。

第3に、全国レベルの通識教育必修課程である毛沢東思想概論などの科目について、学生たちはあまり興味を持っていないということがわかった。学生たちからこれらの課程は全校共通課程であり、通識教育課程に属していないことが認識された。卒業単位を完成するため、これらの授業に多く時間や精力などを入れることが必要ではないと評価されていることが分かった。

これらを踏まえて今後の課題としていくつかの点を提示する。まず、通識教育改革の効果があがらず、その理想の目的と現実の結果の間には差があることが本稿で指摘された。これに対して、これから通識教育課程に関わる授業においては、その教材や教育方法の研究、または授業観察を通じてその問題を深く詳細に研究する必要があると考えられる。

つぎに、博雅学院や書院では教員の配置が不足していることが指摘されてきた。このような通識教育に関する教員の開発については今後も研究が必要であろう。

現在の通識教育に関する組織の改革において、新しい試みとして、元培学院、博雅学院や書院の改革をうまく推進するため、これらの財政の問題も重視されなければならないだろう。更なる通識教育改革のためには、通識教育の財政に関する検討、特にその投入と産出の面から分

析することが必要であると考えられる。この点を今後の課題としたい。

主用参考文献：

大塚豊、2004 年、「第 1 章 中国大衆化の実現と知の拠点形成」馬越徹編『アジア・オセアニアの高等教育』玉川大学出版部、13-33 頁。

陳欣、2003 年、「教養教育の復興：1990 年代以降の中国における学士課程カリキュラムの改革」『大学教育学会誌』第 25 巻、第 2 号、96-104 頁。

苑復傑、2002 年、「中国における大学教育カリキュラム開発－総合大学の事例を中心に－」『大学教育学会誌』第 24 巻、第 1 号、20-27 頁。

楊瞳、2012 年、「中国における教養教育政策の展開と教養教育カリキュラム－3 大学の事例比較－」『大学経営政策研究』第 3 号、117-138 頁

史媛媛、2013 年、「中国の重点大学における教養教育カリキュラム開発のプロセスに関する研究－北京大学の事例から－」『九州教育学会研究紀要』第 41 巻、81-88 頁。

史媛媛、2015 年、「中国の大学における『通識教育』モデルに関する研究」『飛梅論集』vol. 15、73-85 頁。

李曼麗、1999 年、『通識教育：一つの大学教育観』、清華大学出版社。

Donghui Zhang, 2012, “Tongshi Education Reform in a Chines University: Knowledge, Values, and Organizational Changes”, *Comparative Education Review*, 56(3):394-420.

## **A Study on 'TongShi Education' Reform at Key Universities in China: Focusing on the Students' Interview Investigation**

Yuanyuan SHI

The purpose of this study is to investigate the 'tongshi education' reform in China from the viewpoint of students, through case study of Peking University, Sun Yat-sen University and Xi'an Jiao Tong University.

Firstly, this study considers some reasons for the methodology the case study. The Peking University, Sun Yat-sen University and Xi'an Jiao Tong University, three of them are key universities in China.

Secondly, the paper describes the data and summary of the students' survey at the three universities from June to July in 2015. The total number of this students is 14, and there are six students who come from Peking University, four students who are at Sun Yat-sen University, and four students who come from Xi'an Jiao Tong University. There are seven questions in this survey, including the contents of the university studies, the understanding of the tongshi education, the understanding of specialized education, the relationship between tongshi education and specialized education in the university studies, the students' opinions about learning some subjects, like 'the Thought of Mao Zedong', etc., the problems of tongshi education reform, some advices about tongshi education.

Thirdly, this study provides the analyses and the outcomes of the students' survey at the three universities. From the opinions of the students, we know that raising the ability of thinking, and helping the students to find out the interest and future direction are important in the university. We also know that the tongshi education can help students to broaden the knowledge and views, and improve the quality of students. The tongshi education means the freedom to choose the subjects.

In conclusion, this paper sum up the three points of the tongshi education reform in china. The common problems of tongshi education reform at these three universities are considered as the bad effect of reform practice, and the big gap that exists between ideal aims and practices. Moreover, there are three ideals about the relationship between tongshi education and specialized education. Besides, the students are not interested in studying some subjects, like 'the Thought of Mao Zedong', etc. They do not consider that these regulated courses are the part of tongshi education.

On the other hand, there are three issues which will be researched in the future. And these issues refer to class observation, the texts analysis, and the teacher development and also the finance affairs of tongshi education.